

めざす子ども像

ふるさとに夢と誇りを持ち、 自分の意見をしっかりと語れる子ども

取組目標

歴史・人・自然・もの・未来につなげる ESD!
ふるさとに夢と誇りを持つ・故郷の良さを発見！ ふるさとの良さを発信！
ふるさとの文化をつないでいこう！地域ぐるみで特産品を作ろう！

【今年度の取組紹介】

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの活動が見合わせとなる中、25年目を迎えた「アルミ缶回収活動」については、地域の方々の手厚い協力のお陰で、例年と同様に活動を続けることができました。この活動は、当時の中学校生徒会の呼びかけで始まりましたが、今では地域福祉協議会、ボランティア愛歩21、地域住民、学校が一つになり継続して実施しています。今年度は、5台の福祉機器を寄贈することができ、これまでに寄贈した福祉機器は137台になりました。この取組は環境保全の面でも認められ、今年度は「きれいに暮らす奈良県スタイルジャーナル」において「循環型の生活スタイルの普及を目指して」をテーマに取材を受け、地域ぐるみで四半世紀続いできた取組が紹介されました。

他にも、月ヶ瀬クリーン部隊の協力による環境美化活動、烏梅を使った紅花染めなど、いつもとは少し進め方を変えながら行ったものもありますが、いずれも地域の方々には十分な感染症予防対策を考慮いただき、実施することができました。



25年目を迎えた
「アルミ缶回収活動」



福祉センターでの
福祉機器贈呈式

【今年度のまとめ】

今年度は、今まで行ってきた多くのふるさと学習が中止となり、校外へ出て発信する機会も社会情勢上やむを得ず実施を見合わせました。また、地域合同体育祭や文化祭が中止になったこともあり、地域との交流の場も少なくなりました。しかし、この状況の中でも、25年目となったアルミ缶回収活動では、地域の方々の協力のもと、これまでと同様に活動が行われ、福祉センターや診療所に車いす等の福祉機器を贈呈することができました。

また、集まるのが難しいこの機会に、地域内外に広く活躍する新たな人材探しを兼ね、人材バンクの整理を行いました。これまでの取組をさらに発展させられるよう、連携強化に努めていきたいと思っております。

【来年度に向けて】

少子高齢化の進むべき地ではありますが、長年地域の子どもたちを地域で支え、支援する体制が整っています。こども園・小中学校の子どもたちを地域ぐるみで育てる環境を今後も継続して構築していきたいと考えます。また、伝統となったアルミ缶回収活動をはじめ、広報活動にも重点を置き、若い世代の取込を積極的に進めていきたいと考えております。

めざす子ども像

ふるさとに夢と誇りを持ち、自分の意見を しっかりと語れる子ども

取組目標

「ふるさとに夢と誇りを持とう」ふるさとの支援を受けながら、
郷土愛を育て、ふるさとを守り、未来につないでいく生徒の
育成

【今年度の取組紹介】

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、梅やお茶に関する体験学習や、各地区を巡り歴史や伝統を学ぶふるさと Walk 等、恒例となっていた多くの事業が活動見合わせとなりました。地域清掃や友愛訪問（一人暮らしの地域の高齢者との交流）も中止となりましたが、せめて毎年楽しみにしていただいている方に暑中お見舞いや年賀状だけでも…と、コロナ禍で不安な毎日を送る高齢者の方に元気を与えられるよう、心を込めて作成した葉書を送りました。また、地域花いっぱい運動やアルミ缶回収活動は、地域の方々の協力を得て、例年通り活動することができました。

そんな中、今年度は公民館との連携を強化し、コロナ禍の中、学習や将来について悩みを抱えている子どもたちのためにできることはないかと「子ども STUDY サポート塾」を開講していただきました。地域の方々の協力のお陰で、子どもたちは自分たちの暮らす地域をより深く知ると共に、地域の人とのつながりの大切さを学ぶことができました。



子ども STUDY サポート塾



地域花いっぱい運動



【今年度のまとめ】

今年度は、感染症予防のため、例年通りの活動がほぼできませんでしたが、今までのふるさと学習から、故郷を発見、故郷の良さを発信、故郷の文化を継承する精神は変わらずつながっていると考えています。また、ふるさとの抱える課題にも目を向けることができました。

本校の伝統でもある「アルミ缶回収活動」は、今年で25年目になりました。今年度は「きれいに暮らす奈良県スタイル推進協議会」において取材を受け、福祉だけでなく環境面でも貢献できたと評価していただきました。また、今年度から始まった「子ども STUDY サポート塾」では、勉強を教えてもらいながら、先輩方からのアドバイスなども受けられ、成果を挙げることができたと思います。

【来年度に向けて】

今年度から始まった「子ども STUDY サポート塾」では、より多くの子どもが安心して利用できるよう、広報活動にも力を入れ、参加人数を増やしていきたいです。

月ヶ瀬は非常に人材にも恵まれています。広く活躍する人材とつなぐ体制をつくり、キャリア教育をより豊かで充実した学習にする支援体制の構築にも努めていきたいです。

めざす子ども像

ふるさとに夢と誇りをもち、自分の意見を しっかりと語れる子ども

取組目標

月ヶ瀬の良さを体感するために、特産品・この地域にしかない物作りの体験学習や地域に伝わる伝承芸能継承者の方から直に教えていただくことを通して、ふるさと月ヶ瀬をもっと好きになり、将来への夢に繋げる。

【今年度の取組紹介】

月ヶ瀬小学校で取り組む地域学習は、地域の方々に支えられて成り立っています。例年、1・2年生では生活科の昔遊び、3年生のお茶の学習、4年生の地域の産業、5年生は尾山万歳、6年生では狂言を学んでいます。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの活動が中止となりました。そんな中、地域の方々の支援により、梅干し作りや伝統芸能等は、少し形を変えながら実施することができました。特に、伝統芸能の指導では、マスクをつけてのせりふ回しや接触を避けた演技構成等、できる限りの感染予防を考慮していただき、無事に発表を終えることができました。

子どもたちは、自分たちの暮らす地域の生活文化や習慣、産業、伝統文化まで、幅広く月ヶ瀬を学んでいます。6年生になると、月ヶ瀬地域を活性化するにはどうすればよいかをテーマに、自分の考えをまとめ、発表します。発達年齢や教科・領域などの学習との関連も考慮しながら、子どもたちは無理なく、自然と月ヶ瀬を深く知り、故郷を思う気持ちを醸成させています。この学びはやがて中学校での学びにつながり、さらに発展、発信へと深化していきます。これからも自分たちの地域を見つめ、深めていく取組を続けていきたいと思ひます。



☞
伝統芸能の伝承
狂言「口真似」



☞
梅干し作り

【今年度のまとめ】

小学校における学習活動は、学びの基礎基本が中心であり、しっかりとした礎を作ることが大切だと考えています。本校の場合、地域で唯一の学校であり施設一体型の小中一貫教育校という特性を生かすために、小学校ではこれまで取り組んできた地域学習に基盤を置き、取り組んでいます。

今年度は多くの活動が中止となりましたが、コロナ禍の中ご支援くださったことへの感謝の気持ちを忘れず、ふるさと月ヶ瀬を誇りに思い、月ヶ瀬の伝統芸能や文化の伝承者として次の世代を担ってくれるような児童の育成を目指し、これからも取組を続けていきたいと思ひます。

【来年度に向けて】

指導してくださる地域の少子高齢化が進み、伝統芸能や文化の伝承が危ぶまれるようになってきています。伝統芸能や生活文化を伝承する人材の確保が難しい中、どのように続けていくかを地域も学校も考えていく必要が出てきています。たいへん難しい課題ではありますが、子どもたち自身がそれらを伝承していく自覚が育つように、これからもしっかりと取り組んでいきたいと思ひます。

めざす子ども像

ふるさとに夢と誇りを持ち、自分の意見を

しっかりと語れる子ども

取組目標

地域とのつながりを大切にして地域に親しみ、地域の伝統、産業に触れ
興味関心を持つ

【今年度の取組紹介】

・夏野菜の苗植え。玉ねぎの苗植え。

キュウリ、トマト、ピーマン、パプリカ、おくらなど植えました。

・陶芸体験

間隔をあけて陶芸用の粘土をこねてお茶会で使う湯のみと菓子皿を作りました。

・染物体験（玉ねぎ染め）（どんぐり染め）

玉ねぎ染めとどんぐり染めで、ランチョンマットを作りました。

・お茶会

自分で作った湯のみと皿で月ヶ瀬の美味しいお茶を頂きました。

・お話の会（だっこ）（108）

大型絵本や大型紙芝居、エプロンシアターなど地域の方と楽しみました。

・しめ縄づくり体験

地域の方に、お正月の話を聞いた後木の実や松、千代紙などを使ってしめ飾りを作りました。



【今年度のまとめ】

今年度は、新型コロナウイルス感染症の関係と天候の加減で茶摘み、茶工場見学、地域散歩など計画していたが、中止になってしまいました。また、お年寄りとの交流もできませんでした。しかし野菜の苗植え、陶芸体験、お茶会、染物体験、お話の会、しめ縄づくり体験など、地域の方と三密を守り、マスク着用、手指消毒、検温など感染対策をした上で行う事ができ、新しい生活様式での活動となりました。子ども達は地域の方といろいろな経験をし、一緒に活動することで、いろいろな発見に驚き自分たちの住む地域の特産物を知り、地域に関心を持ち親しむことができました。

【来年度に向けて】

新しい生活様式の中で出来ることを広げ、様々な経験を通し得たことを次年度に生かせるように、また、目標に向け子ども達が生き生きと活動できるように、事業内容を検討し進めていきたいと思います。